

Third-generation Bandai Bridge

90th anniversary

三代目

# 萬代橋 90周年

～新潟市のシンボルを、いつまでも～

自動車が未だ少ない1929(昭和4)年、三代目萬代橋は開通しました。以来、高度経済成長期、新潟地震、政令市移行などを経て、時代もまちも大きく変貌しましたが、萬代橋は架橋当時の姿のまま新潟市の東西を結び続けています。今年、架橋から90周年。新潟市のシンボル萬代橋の、これまでと未来に、思いをはせます。

## 三代目萬代橋が架かるまで

初代萬代橋の架橋は1886(明治19)年。当時信濃川の川幅は今の3倍ほどあり、架橋当時は日本最長の木造橋でした。初代は当初、個人所有で通行料が徴収されましたが、1900(明治33)年には新潟県の買収により無料となりました。1908(明治41)年の火災により一度消失しましたが、翌年には新潟県により二代目萬代橋が架橋されました。萬代橋の架設により当時の交通量は大きく増加し、後の新潟市(橋の西側)と沼垂町(橋の東側)の合併に大きく貢献しました。

初代萬代橋の設計者は、フランス留学を経た古市公威で、二代目萬代橋も古市の設計を踏襲しています。当時の木造橋は水害などで流失することが多くありましたが、萬代橋は横田切れ、首川切れなどの水害でも流されることがありませんでした。古市はのちに初代土木学会会長となり、現在も「土木界のレジェンド」とされる人物です。

大正時代半ばを過ぎると新潟市にも自動車が登場し、萬代橋も損傷が急激に進むようになりました。このような中、三代目萬代橋の架け替えは、大河津分水通水後に信濃川両岸が埋め立てられ、川幅が3分の1へと大幅に縮小された時期に実施されました。橋の長さが短くなり、建設費の削減にも繋がることから、鉄・コンクリートなどを用いた近代橋への架け替えが可能となりました。

そして、現在架かっている三代目萬代橋の設計は、関東大震災を契機に発足された内務省復興局橋梁課で行われました。古市に続けて土木学会会長にもなった田中豊や福田武雄といった技術者により、三代目萬代橋には復興過程で得た膨大な知見が注ぎ込まれました。

## 萬代橋の「用」

自動車の少なかった時代に建設されたにもかかわらず、萬代橋は、片側2車線と歩道を持ち、最盛期で1日6万台強、柳都大橋開通後の現在においても日々約3万台の交通量を支え、まちの発展の一翼を担っています。これは建設時の沼垂町との合併間もない新潟市の「都市の風格」をつくるという志と、当初路面の中央に電車の軌道が敷かれる予定であり、橋梁の幅員が広く設計されていたことによります。歩道には現在ロードヒーティングを整備し、冬の雪道にも対応しました。1日平均9千人以上が通行する歩行者の多い橋でもあります。

## 萬代橋の「強」

萬代橋は、6つのアーチの下に位置した川底の地盤まで達する高さ15.2mの基礎で強固に支えられています。これらは関東大震災の復興過程で導入された空気潜函工法(ニューマチックケーソン工法)でしっかり地盤に固定されており、その強さは図らずも1964(昭和39)年の新潟地震で実証されました。マグニチュード7.5、市内では至るところで液状化が起り、津波が信濃川を駆け上がった大災害で、中心市街地では唯一萬代橋だけが通行可能な橋となり、新潟市の復興に大きく貢献しました。1979(昭和54)年～1980(昭和55)年には大規模な耐荷力調査を行い、新潟地震による大きな被害は確認されていません。以降も定期的な維持管理により、萬代橋は橋としての健全性を保ち続けています。

## 萬代橋の「美」

広がった信濃川を狭めると同時に架けられた三代目萬代橋は、大きく緩やかな6連アーチを採用することで橋の優美さと剛健さを実現させ、アーチの頂点を構造上可能な限り薄くすることで、景観の水平面を強調しつつ雄大さを引き立たせました。外側は御影石張りで、風格とともに鉄筋の腐食を防ぐなど耐久性向上にも貢献。橋詰め広場や外壁、親柱などの意匠デザインは、モダニズム建築の巨匠・山田守が行いました。

## 100周年、さらにその先へ

三代目萬代橋が70周年を迎えた頃、市民の間では新潟市の政令市指定に向けた議論の中で、萬代橋の魅力と価値を再認識しようとの動きが活性化しました。このような経緯もあり、萬代橋は75周年を迎えた2004(平成16)年に照明灯や橋側灯が建設当時の意匠に復元され、重要文化財指定を受けました。これは新潟市の発展を支え続けた萬代橋を、広域合併を経た後の新たな新潟市でもシンボルにという市民活動の成果でもありました。

現在、萬代橋は毎年の誕生祭やチューリップフェスティバル、新潟まつりの大民謡流しや新潟シテイマラソンの舞台として親しまれています。更に萬代橋を軸とした信濃川両岸や港を含むエリアにおいても、ミズベリングをはじめとした賑わい空間の創出に向けた取り組みが進められています。

一般的に構造物の健全性は、定期的な維持管理はもとより、人々に大切に使用されることにより非常に差が出るものです。信濃川と萬代橋がある景観を、これからも新潟市の宝として、守り磨いていきます。



チューリップフェスティバル

**DATA**  
全長 / 約306.9m  
幅 / 22m  
竣工 / 1929(昭和4)年  
8月23日  
萬代橋を一部とする国道は、7号、8号、17号、113号と350号の5路線。表示では最も数が小さい国道7号としている。

